

No.	号	年	区分	題目	著者
1	1	1969	論文	『愚管抄』の歴史思想	石田一良
2	1	1969	論文	『徒然草』における「まことの人」	広神清
3	2	1970	論文	明治における儒教の評価	柴田実
2	1	1969	論文	『徒然草』における「まことの人」	広神清
3	2	1970	論文	明治における儒教の評価	柴田実
6	4	1972	論文	『大鏡』の歴史観	笠井昌昭
7	4	1972	論文	鼎浦、小山東助論序説——自由キリスト教徒の生涯と思想——	大内三郎
8	5	1973	論文	日韓合邦運動と杉山茂丸	西尾陽太郎
9	5	1973	論文	幕末維新における天の思想——西郷隆盛の『與人役大躰』をめぐって——	石毛忠
10	6	1974	論文	津田博士の思想史における「人」の問題	栗田直躬
11	6	1974	論文	村岡典嗣教授に於ける思想史の方法——特に価値観と歴史叙述の関連について——	梅沢伊勢三
12	6	1974	論文	和辻哲郎の日本思想史研究——方法とそのエートス——	湯浅泰雄
13	7	1975	論文	富士谷御杖の思想についての一考察	鈴木暎一
14	7	1975	論文	陰陽五行思想の日本的受容の一考察	松島隆裕
15	7	1975	論文	秀逸と花——二条良基と世阿弥の関連——	新川哲雄
16	7	1975	論文	吉田松陰の歴史意識——水戸学との関連において——	露口卓也
17	8	1976	論文	南北朝記期の公家の政治思想の一側面——北畠親房・二条良基における儒教的徳治論への対応をめぐって——	玉懸博之
18	8	1976	論文	『池亭記』から『極楽記』へ——慶滋保胤の軌跡——	渡部治
19	8	1976	論文	宣長学に於ける歌学思想の一考察	名倉正博
20	8	1976	論文	山梨県自由民権運動と小林正則	清水威
21	8	1976	論文	哀感の構造——国木田独歩における感情のあり方——	竹内整一
22	9	1977	論文	梅園と張載	柳沢南
23	9	1977	論文	徂徠における「天」と「作為」	小島康敬
24	9	1977	論文	佐久間象山の物理と倫理——幕末における朱子学体系の崩壊——	小池喜明
25	9	1977	論文	攘夷論の成立と論理——『新論』について——	露口卓也
26	9	1977	論文	道元における叢林教育の二面性——仏の教育と菩薩の教育——	加藤健一
27	9	1977	論文	日蓮の後期の思想——王法と仏法との関係を中心にして——	佐藤弘夫
28	10	1978	論文	中世初期神道の形成——『中臣祓訓戒』・『記解』を中心に——	岡田荘司
29	10	1978	論文	親鸞の他力思想	二宮嘉須彦
30	10	1978	論文	道元における坐禅の意義について	倉沢幸久
31	10	1978	論文	『仮名性理』の成立に関する一試論——『滝川心学論』を媒介として——	山本眞功
32	10	1978	論文	徂徠学における「道」の様態	黒住眞
33	10	1978	論文	植村正之と金森通倫——「新神学」問題を中心に——	田代和久
34	11	1979	論文	源氏物語における時間意識——年始の諸相をめぐって——	矢沢勢紀子
35	11	1979	論文	「更級日記」における自省のかたち	土井廣子
36	11	1979	論文	心敬における仏道と連歌道	影山純夫
37	11	1979	論文	林羅山の思想——理気論・心性論の軌跡——	栗原克榮
38	11	1979	論文	石田梅岩における「我」の位相	矢野敦子
39	11	1979	論文	横井小楠の学問と政治	沖田行司
40	12	1980	論文	法然の選択思想と五決定	奈良博順
41	12	1980	論文	大嘗祭の基礎構造——天皇の祭祀と官人機構——	黒崎輝人
42	12	1980	論文	伊勢神道の形成と度会行忠——『大元神一秘書』の成立をめぐって——	高橋美由紀

43	12	1980	論文	海保青陵と『老子』——『老子国字解』をめぐって——	八木清治
44	12	1980	論文	本居宣長における歌の様相	山田隆信
45	12	1980	論文	沼田順義——その少青年期——	小笠原春夫
46	12	1980	論文	明治二〇年代におけるキリスト教雑誌——平岩愼保の『野声反響』について——	山本幸規
47	13	1981	論文	口称の根拠と念仏集団	新保哲
48	13	1981	論文	徂徠『読荀子』正名篇注釈をめぐって	高橋博巳
49	13	1981	論文	三浦梅園の【今十云】易論	五郎丸延
50	13	1981	論文	『あしわけをぶね』論	清水正之
51	13	1981	論文	会沢正志斎に於ける礼の構想	田尻祐一郎
52	13	1981	論文	初期西田哲学における「神人」的「自己」について	工藤亨
53	13	1981	論文	「個人主義者」大杉栄	太田哲男
54	14	1982	論文	中世における道の思想	渡部正一
55	14	1982	論文	『宗湛日記』の世界——神屋宗湛と茶の湯——	小澤富夫
56	14	1982	論文	山鹿素行の心性論	前田勉
57	14	1982	論文	西川如見の儒学思想	柳澤南
58	14	1982	論文	三浦梅園と山片蟠桃	高橋正和
59	14	1982	論文	「解釈」の成立——皆川淇園の開物学について——	櫻井進
60	14	1982	論文	北一輝の維新革命論	岡崎正道
61	15	1983	論文	吉田松陰の天皇観	山口宗之
62	15	1983	論文	近世初期における朱子学的思惟の自潰——中江藤樹の「心跡差別」論を中心として——	荻生茂博
63	15	1983	論文	荻生徂徠の「鬼神」論	中村春作
64	15	1983	論文	京の脱徂徠学派 宇野明霞	高橋博巳
65	15	1983	論文	『自助論』受容過程にみられる“家”の思想	藤原暹
66	15	1983	論文	南方熊楠における普遍主義・自然主義・ナショナリズム	太田哲男
67	15	1983	論文	師説 古学派論考	井上順理
68	16	1984	論文	世界の中の日本——日本人は世界の中で日本をどう捉えてきたか——	笠井昌昭
69	16	1984	論文	中江藤樹と陽明学——誠意説をめぐって——	吉田公平
70	16	1984	論文	徂徠学の原型——『孫子国字解』の思想——	前田勉
71	16	1984	論文	古医方家・永富独嘯庵の医術修行論	立花均
72	16	1984	論文	本居宣長の「国造」制論とその思想的意味——宣長学考察の一視点——	高橋章則
73	16	1984	論文	古事記序文観の変遷	早川万年
74	16	1984	論文	西田哲学とはなにか——所謂東西の総合の一考察——	工藤亨
75	17	1985	論文	小崎弘道の宗教思想	原島正
76	17	1985	論文	『正法眼蔵』における「天童如浄」把握	正野泰周
77	17	1985	論文	北畠親房の思想的基盤	白山芳太郎
78	17	1985	論文	中井履軒の中庸解釈の特質	藤本雅彦
79	17	1985	論文	幕末思想家と熊沢蕃山——幽谷・方谷・小楠の蕃山理解・受容をめぐって——	八木清治
80	17	1985	論文	大国隆正における国学四大人観の形成過程	松浦光修
81	17	1985	論文	真木和泉の王政維新の思想	岡崎正道
82	18	1986	論文	道元の「身心」考	伊東洋一
83	18	1986	論文	慈遍・兼俱・宣賢にみる一気論	小山恵子
84	18	1986	論文	心敬美観の感覚的側面の構造	菅基久子
85	18	1986	論文	山崎闇斎の太極観に関する一考察	早川雅子

86	18	1986	論文	山鹿素行の職分主義と朱子学批判	立花均
87	18	1986	論文	蘭学と解剖	吉田忠
88	18	1986	論文	文久期公武合体運動と「王霸論」的秩序観	吉田昌彦
89	19	1987	論文	無住『雑談集』について——「愚老述懐」の段をめぐって——	大隅和雄
90	19	1987	論文	言霊論——解釈の転回——	伊藤益
91	19	1987	論文	怨霊の幻影—五大堂と撰関家藤原氏—	竹居明男
92	19	1987	論文	虎関師練の思想	市川浩史
93	19	1987	論文	近世後期史学史と『逸史』	高橋章則
94	19	1987	論文	日本考証学派の民衆観——松崎慊堂の「新民」解釈と現実認識——	小林幸夫
95	19	1987	論文	横井小楠における新国家像	イサム・R・ハムザ
96	19	1987	論文	『月に吠える』前半の問題	渡辺和靖
97	19	1987	書評	池見澄隆著『中世の精神世界——死と救済』	佐藤弘夫
98	20	1988	論文	大田錦城の『九経談』と“批徂徠学”	今中寛司
99	20	1988	論文	日本書紀における仏教伝來說話をめぐって	佐藤正英
100	20	1988	論文	宣命と仏教——『続日本紀』神護景雲三年十月乙未朔条の一考察——	八重樫直比古
101	20	1988	論文	親鸞における「法」と「機」の出会いについて	宮島磨
102	20	1988	論文	本多利明と朴齊家——実学思想の対比的研究——	許晃会
103	20	1988	論文	佐藤一斎の思想——寛政期をめぐって——	中村安宏
104	20	1988	論文	並河寒泉の社会政治観——『辨怪』と『居諸録』を中心に——	陶徳民
105	20	1988	論文	大西祝「進化論的理想説」の源流	平山洋
106	21	1989	特集	日本の伝統と外来思想——神道・儒教・仏教・キリスト教の諸問題——	
107	21	1989	特集	儒家神道における儒教摂取の思想と論理——羅山・延佳・惟足をめぐって——	高橋美由紀
108	21	1989	特集	江戸時代における仏教と神道——慈雲の神道説をめぐって——	山本眞功
109	21	1989	特集	「家」の祭祀をめぐる儒仏の確執——藤樹・光政・不受不施・羅山——	荻生茂博
110	21	1989	特集	近世初期におけるキリシタンと伝統思想	村田安穂
111	21	1989	論文	最澄における仏性理解	新川哲雄
112	21	1989	論文	演能の思想的基盤——世阿弥『風姿花伝』「第四神儀」編を中心に——	吉村均
113	21	1989	論文	円戒復興と記家の思想——『溪嵐拾葉集』を中心に——	曾根原理
114	21	1989	論文	近世初頭における「神」観念形成の特質	井上厚史
115	21	1989	論文	ヴィクトリア思想と植村正之	田代和久
116	21	1989	書評	『江戸の儒学——『大学』受容の歴史——』	藤本雅彦
117	22	1990	論文	『万葉集』にみられる「無常」の観念の受容	根村直美
118	22	1990	論文	『さゝめごと』における「えん」論の構造	菅基久子
119	22	1990	論文	宮本武蔵『五輪書』における「わざ」と「道」	笠井哲
120	22	1990	論文	徳川前期儒教と身分秩序	佐久間正
121	22	1990	論文	権・時処位・心——中江藤樹の思想——	樋口浩造
122	22	1990	論文	荻生徂徠の公私観と政治思想	本郷隆盛
123	22	1990	論文	徂徠の言語観と「天命」の問題について	井上厚史
124	22	1990	論文	士族選挙権論争と自由民権運動昂揚期の選挙制度制の発展	澤大洋
125	22	1990	論文	内村鑑三と進化論	藤田豊
126	22	1990	書評	源了圓著『型』	広神清
127	23	1991	論文	空海における五相成身観の構図	米田達也
128	23	1991	論文	『日本霊異記』における聖武天皇	八重樫直比古

129	23	1991	論文	道元の言語表現——「将錯就錯」	春日佑芳
130	23	1991	論文	道元の「光明」	毛利豊史
131	23	1991	論文	林羅山の『老子口義』受容	大野出
132	23	1991	論文	安井真祐の仏教批判——「非火葬論」を中心に——	高橋文博
133	23	1991	論文	平田篤胤学派の社会構造論	イサム・R・ハムザ
134	23	1991	論文	吉田松陰の忠の思想86~97	東中野修道
135	23	1991	論文	新島襄ノート——徳富蘇峰の新島像——	露口卓也
136	23	1991	書評	辻本雅史著『近世教育思想史の研究』	沖田行司
137	24	1992	特集	〈平成3年度大会パネルディスカッション〉Ⅰ 徂徠をめぐる諸問題	
138	24	1992	特集	テーマの設定をめぐって	黒住真
139	24	1992	特集	法思想史における徂徠	緒形康
140	24	1992	特集	徂徠学における「道」の普遍性と相対性	平石直昭
141	24	1992	特集	荻生徂徠の思想構成	本郷隆盛
142	24	1992	特集	〈平成3年度大会パネルディスカッション〉Ⅱ 近世後期思想史における民衆	
143	24	1992	特集	テーマの設定をめぐって	宮城公子
144	24	1992	特集	懐徳堂思想と民衆	宮川康子
145	24	1992	特集	幕末国学と民衆思想	桂島宣弘
146	24	1992	特集	近世後期における民衆観——教化論を中心に——	辻本雅史
147	24	1992	論文	月と氷のシンボリズム	菅基久子
148	24	1992	論文	佐藤直方と太平記読み	若尾政希
149	24	1992	論文	石田梅岩と老荘思想	大野出
150	24	1992	論文	「武士道」から「奉公人」道へ——『葉隠』研究序説——	小池喜明
151	24	1992	論文	小崎弘道研究——聖霊信仰を中心に——	原島正
152	24	1992	論文	独り待つ——内村鑑三の伝道——	長野美香
153	24	1992	書評	今堀太逸著『神祇信仰の展開と仏教』	広神清
154	24	1992	書評	柴田純著『思想史における近世』	田尻祐一郎
155	25	1993	特集	〈平成4年度大会主題発表〉 日本思想史上の世界と日本	
156	25	1993	特集	日本思想史上の古代——時間と空間——	古田武彦
157	25	1993	特集	中世	大隅和雄
158	25	1993	特集	華夷思想再考——西洋認識の一視覚——	小池喜明
159	25	1993	論文	空海の自然観	村上保壽
160	25	1993	論文	法然浄土教における地藏誹謗	清水邦彦
161	25	1993	論文	良遍における菩提心をめぐる諸問題——鎌倉旧仏教の修行論——	島田健太郎
162	25	1993	論文	大塩中斎の「帰太虚」をめぐって	豊澤一
163	25	1993	論文	幕末日本のアヘン戦争観——古賀?庵を起点にして——	前田勉
164	25	1993	論文	精神主義の覚醒と《日本への回帰》——山路愛山と井上哲次郎——	伊藤雄志
165	25	1993	論文	植村正久の世界——伝統と信仰をめぐって——	鶴沼裕子
166	25	1993	書評	白山芳太郎著『北畠親房の研究』	新川哲雄
167	25	1993	書評	子安宣邦著『本居宣長』	小島康敬
168	26	1994	特集	〈平成5年度大会主題発表〉 国学研究の現在	
169	26	1994	特集	「新国学」の戦前と戦後——柳田民俗学と国家との関係——	中村生雄
170	26	1994	特集	明治国学の研究課題	阪本是丸
171	26	1994	特集	幕末国学像の再検討のために——「比考」としての言説構造の展開をめぐって——	桂島宣弘

172	26	1994	特集	『古事記伝』と『古史伝』——その連続と差異——	子安宣邦
173	26	1994	論文	慚愧の精神史——その初発としての『靈異記』——	池見澄隆
174	26	1994	論文	禪と念仏の接点——法燈国師と萱堂聖をめぐって——	松下みどり
175	26	1994	論文	「朝敵」考	市川浩史
176	26	1994	論文	北畠親房と宋学——『大学』・『中庸』の受容をめぐって——	下川玲子
177	26	1994	論文	本居宣長の「現身」に関する考察88~99	大久保紀子
178	26	1994	論文	寛政異学の禁再考	高橋章則
179	26	1994	論文	新たな知性の誕生——平田篤胤考察——	星山京子
180	26	1994	書評	中村生雄『日本の神と王権』	窪田高明
181	27	1995	特集	〈平成6年度大会シンポジウム〉転換期における国家と天皇	
182	27	1995	特集	天皇制研究の現在——テーマの設定によせて——	本郷隆盛
183	27	1995	特集	古代神話の多元性と天皇の正統性	神野志隆光
184	27	1995	特集	コメント	黒崎輝人
185	27	1995	特集	中世における天皇権威の推移	今谷明
186	27	1995	特集	コメント	佐藤弘夫
187	27	1995	特集	徳川朝幕関係の再編——新井白石の幕府王権論をめぐって——	ケイト・W・ナカイ
188	27	1995	特集	コメント	沢井啓一
189	27	1995	特集	膨張する国家と天皇——井上哲次郎の世界論——	沖田行司
190	27	1995	特集	コメント	中野目徹
191	27	1995	論文	修と証の〈あいだ〉——道元の修証観をめぐって——	井上克人
192	27	1995	論文	鈴木正三における「天道」	加藤みち子
193	27	1995	論文	富士谷御杖における理と欲と神	大久保紀子
194	27	1995	論文	佐藤一斎と後期水戸学——『弘道館記』の成立過程——	中村安宏
195	27	1995	論文	賀茂規清の神代巻解釈	末永恵子
196	27	1995	論文	井伊直弼の茶の湯——心から形へ、形から心へ——	谷村玲子
197	27	1995	書評	高橋美由紀『伊勢神道の成立と展開』	佐野真人
198	27	1995	書評	陶徳民『懐徳堂朱子学の研究』	野村真紀
199	27	1995	書評	中野目徹『政教社の研究』	渡辺和靖
200	28	1996	特集	〈平成7年度大会シンポジウム〉歴史と表象	
201	28	1996	シンポジウム	歴史と表象——日本における歴史叙述の伝統——	石毛忠
202	28	1996	シンポジウム	『日本書紀』の国家史の構想——一、二の予備的考察——	山尾幸久
203	28	1996	シンポジウム	一国歴史学の成立——近代日本と歴史学——	大隅和雄
204	28	1996	シンポジウム	戦争の語られ方	ひろたまさき
205	28	1996	シンポジウム	書かれたものと書きえぬこと——歴史表象と死者の記憶——	子安宣邦
206	28	1996	研究史	近世前期の歴史思想——近世武家史学の成立・成熟をめぐって——	玉懸博之
207	28	1996	提言	自明性の解体の中で	鹿野政直
208	28	1996	論文	叡尊教団の変化——寺領の集積過程からみた中世西大寺——	吉原健雄
209	28	1996	論文	心敬における無常観と無常詠	菅基久子
210	28	1996	論文	教説の時代と近世神道——垂加神道を考える——	樋口浩造
211	28	1996	論文	本居宣長の神の定義について	大久保紀子
212	28	1996	論文	柳田民俗学における「自己」と「他者」——「米」と「肉」の対称性をめぐって——	六車由美
213	28	1996	書評	八重樫直比古著『古代の仏教と天皇』	新川登亀男
214	28	1996	書評	末木文美士著『平安初期仏教思想の研究』	新川哲雄

215	28	1996	書評	佐藤勢紀子著『宿世の思想——源氏物語の女性たち』	柏木寧子
216	28	1996	書評	井手勝美著『キリシタン思想史研究序説』	山本眞功
217	28	1996	書評	横山俊夫編『貝原益軒——天地和楽の文明学』	佐久間正
218	28	1996	書評	苅部直著『光の領国 和辻哲郎』	頼住光子
219	28	1996	報告	平成7年度大会の概況	
220	29	1997	特集	〈平成8年度大会シンポジウム〉思想史の中のライフサイクル——思想史と社会史の接点	
221	29	1997	シンポジウム	日本思想史の新しい可能性	ウィリアム・スティール
222	29	1997	シンポジウム	中世における経済と宗教	網野善彦
223	29	1997	シンポジウム	「一期(いちご)」の認識について	横井清
224	29	1997	シンポジウム	儒教・儒家神道と死——「朱子家礼」受容をめぐって——	田尻祐一郎
225	29	1997	シンポジウム	幕末在村知識人と真宗——原稻城における「我」の形成——	大桑斉
226	29	1997	シンポジウム	生物学からみたライフサイクル	村上陽一郎
227	29	1997	シンポジウム	網野・横井報告へのコメント	今谷明
228	29	1997	研究史	明治のキリスト教——LOVEの訳語をめぐって——	原島正
229	29	1997	論文	古事記神話の構図——古代日本人の「歴史の起源」に対する観念——	北康宏
230	29	1997	論文	蜷巻物語論における仏教思想の位置づけ——「人のよきあしきばかりの事」新釈——	佐藤勢紀子
231	29	1997	論文	謡曲『黒塚』をめぐって——個人性と日常性の相剋——	出岡宏
232	29	1997	論文	鈴木正三の仏法理解——出家・戒律観をめぐって——	加藤みち子
233	29	1997	論文	荻生徂徠の天命説	片岡龍
234	29	1997	論文	岡倉天心『東洋の思想』の構造——「アジアは一つ」と「国民的」なるものの相克——	岡本佳子
235	29	1997	書評	追塩千尋著『中世の南都仏教』	吉原健雄
236	29	1997	書評	前田勉著『近世日本の儒学と兵学』	高橋文博
237	29	1997	報告	平成8年度大会の概況	
238	30	1998	特集	〈平成9年度大会シンポジウム〉歴史としての「東北」	
239	30	1998	シンポジウム	歴史としての「東北」	笠井昌昭
240	30	1998	シンポジウム	古代における「東北」像——その虚像と実像——	新野直吉
241	30	1998	シンポジウム	「みちのく」像の成立と展開	佐々木馨
242	30	1998	シンポジウム	安藤昌益における「東北」	三宅正彦
243	30	1998	シンポジウム	啄木と賢治を通して見た「東北」	遊座昭吾
244	30	1998	提言	古典教育と講義の自己点検	平石直昭
245	30	1998	論文	天神縁起と太平記	八木聖弥
246	30	1998	論文	林羅山排仏論の一考察——朱子・韓愈との比較を通して——	【龍十共】 穎
247	30	1998	論文	芭蕉における莊子——江戸期の老荘受容と対比して——	金谷治
248	30	1998	論文	室鳩巢の朱子学受容	中村安宏
249	30	1998	論文	宣長における「心だに」の論理の否定——垂加神道と宣長との関係——	前田勉
250	30	1998	論文	国学と文献学	畑中健二
251	30	1998	書評	佐々木馨著『中世仏教と鎌倉幕府』	市川浩史
252	30	1998	書評	渡辺浩著『東アジアの王権と思想』	中村春作
253	30	1998	書評	大野出著『日本の近世と老荘思想』	宮川康子
254	30	1998	書評	安丸良夫著『〈方法〉としての思想史』	桂島宣弘
255	30	1998	報告	平成9年度大会の概況	
256	30	1998	目録	『日本思想史学』目録(創刊号～第29号)	
257	31	1999	特集	〈平成10年度大会シンポジウム〉近代思想史における「異郷」としての日本	

258	31	1999	シンポジウム	近代思想史における「異郷」としての日本	沖田行司
259	31	1999	シンポジウム	福沢諭吉——その思考法——	露口卓也
260	31	1999	シンポジウム	内村鑑三	原島正
261	31	1999	シンポジウム	丸山眞男	西田毅
262	31	1999	論文	崇り神の変身——崇る神から罰する神へ——	佐藤弘夫
263	31	1999	論文	無住道暁の「方便」説と人間観	吉原健雄
264	31	1999	論文	熊沢蕃山の『周易』解釈における独自性——「太極」をキーワードに——	閻茜
265	31	1999	論文	徳川十七—十八世紀における秩序論の様相——仁齋学と徂徠学を中心として——	高熙卓
266	31	1999	論文	太平天国と吉田松陰の思想形成	郭連友
267	31	1999	論文	近代における宗教的・道徳的諸相——福沢諭吉・清沢満之・今村恵猛——	守屋友江
268	31	1999	論文	保田與重郎の習作期——「上代芸術理念の完成」を中心に——	渡辺和靖
269	31	1999	書評	佐藤弘夫著『神・仏・王権の中世』	佐藤眞人
270	31	1999	書評	玉懸博之著『日本中世思想史研究』	八木聖弥
271	31	1999	書評	辻本雅史著『「学び」の復権——模倣と習熟』	高橋文博
272	31	1999	書評	宮川康子著『富永仲基と懐徳堂——思想史の前哨』	表智之
273	31	1999	書評	桂島宣弘著『思想史の十九世紀——「他者」としての徳川日本』	見城悌治
274	31	1999	書評	長志珠絵著『近代日本と国語ナショナルリズム』	山東功
275	31	1999	報告	平成10年度大会の概況	
276	32	2000	特集	〈平成11年度大会シンポジウム〉丸山思想史学の地平	
277	32	2000	シンポジウム	シンポジウム「丸山思想史学の地平」について	大隅和雄
278	32	2000	シンポジウム	丸山古代思想史をめぐって	水林彪
279	32	2000	シンポジウム	丸山中世思想史をめぐって	末木文美士
280	32	2000	シンポジウム	丸山近世思想史をめぐって—丸山眞男における近世思想史の〈不在〉—	澤井啓一
281	32	2000	シンポジウム	丸山思想史と思惟様式論	安丸良夫
282	32	2000	シンポジウム	丸山眞男における思想史と政治理論	川崎修
283	32	2000	シンポジウム	丸山眞男における現代・伝統・思想史	松沢弘陽
284	32	2000	パネルセッション	「垂加神道と国学」—先行研究と論点の所在—	遠藤潤
285	32	2000	パネルセッション	近世日本における天皇権威の浮上の理由	前田勉
286	32	2000	パネルセッション	出雲大社に於ける垂加神道と国学の共生	西岡和彦
287	32	2000	パネルセッション	知の普及と地域社会	小林准士
288	32	2000	パネルセッション	「総力戦の思想」—先行研究と本パネルの立場—	子安宣邦
289	32	2000	パネルセッション	戦時期日本の精神科学	宇野田尚哉
290	32	2000	パネルセッション	総力戦体制下の政治思想	平野敬和
291	32	2000	パネルセッション	戦時期〈植民地社会科学〉論序説	盛田良治
292	32	2000	パネルセッション	日本浪漫派の問題—保田與重郎のレトリック—	宮川康子
293	32	2000	提言	日本思想史をどう教えるか———教員の試み——	ケイト・W・ナカイ
294	32	2000	論文	『源氏物語』にあらわれた天台思想——螢巻仏法論と天台の方等時解釈——	佐藤勢紀子
295	32	2000	論文	豊宮崎文庫の創設における権威の伝承と教化の問題について——度会延佳を中心に——	鈴木孝子
296	32	2000	論文	近世対馬における全島民による防衛思想——陶山訥庵「鉄砲格式僉議条目」を中心に——	佐久間正
297	32	2000	論文	大川周明の日本歴史観	昆野伸幸
298	32	2000	論文	丸山近世思想史学における主題上の変化——その過程と意義——	福井裕之
299	32	2000	書評	八木聖弥著『太平記的世界の研究』	佐々木馨
300	32	2000	書評	東より子著『宣長神学の構造——仮構された「神代」』	表智之

301	32	2000	書評	M・W・スティール著『もう一つの近代—側面からみた幕末明治』	松田宏一郎
302	32	2000	報告	平成11年度大会の概況	
303	33	2001	特集	〈平成12年度大会シンポジウム〉東アジアの儒教—二十一世紀の思想史研究	
304	33	2001	シンポジウム	東アジアの儒教—二十一世紀の思想史研究—	大会実行委員会
305	33	2001	シンポジウム	中国における宋明理学研究の方法、視点とその趣向	陳来
306	33	2001	シンポジウム	韓国社会と儒教	池明観
307	33	2001	シンポジウム	二十一世紀における新儒教研究	吉田公平
308	33	2001	シンポジウム	「武国」日本のなかでの朱子学の役割	前田勉
309	33	2001	パネルセッション	『麗気記』にみる中世—神道思想の新たなる視座を求めて—	三橋正
310	33	2001	パネルセッション	『麗気記』世界の生成—その構造を読み解く—	三橋正
311	33	2001	パネルセッション	『麗気記』の図像学—中世神道のイメージとシンボル—	門屋温
312	33	2001	パネルセッション	『麗気記』とく註釈—中世註釈の言説世界から—	原克昭
313	33	2001	パネルセッション	埋没する『麗気記』世界—〈校訂〉する近世—	森瑞枝
314	33	2001	研究史	中世仏教研究と顕密体制論	佐藤弘夫
315	33	2001	提言	アメリカにおける江戸思想史の三十年を顧みて	ヘルマン・オームス
316	33	2001	論文	心を付けて感ずべし—『等伯画説』の一節—	田村航
317	33	2001	論文	林羅山の仏教批判—死生観を中心として—	本村昌文
318	33	2001	論文	おみくじと天道—元三大師御籤注解考—	大野出
319	33	2001	論文	荻生徂徠の「老子」像—「知礼者」・「空言者」—	藍弘岳
320	33	2001	論文	彦根藩における国学の受容と変化	大久保紀子
321	33	2001	論文	語りの中の「武士道」—批判的系譜学の試み—	樋口浩造
322	33	2001	書評	下川玲子著『北畠親房の儒学』	高橋美由紀
323	33	2001	書評	末永恵子著『烏伝神道の基礎的研究』	神田秀雄
324	33	2001	書評	中村生雄著『祭祀と供養—日本人の自然観・動物観』	白山芳太郎
325	33	2001	書評	八木公生著『天皇と日本の近代』	中村生雄
326	33	2001	報告	平成12年度大会の概況	
327	34	2002	特集	〈2001年度大会シンポジウム〉大坂の学藝	
328	34	2002	シンポジウム	シンポジウム「大坂の学藝」趣旨説明	井上克人
329	34	2002	シンポジウム	大阪の絵画・兼葭堂とその周辺	中谷伸生
330	34	2002	シンポジウム	大阪の学藝と徂徠学	中村春作
331	34	2002	シンポジウム	都市の学藝と在村の学藝	山中浩之
332	34	2002	研究史	民衆宗教研究・研究史雑考	桂島宣弘
333	34	2002	提言	「日本思想史学の成立と展開」をめぐって	藤原暹
334	34	2002	論文	鑑真門流における天台止観受容—法進『沙弥十戒並威儀経疏』をめぐって—	富樫進
335	34	2002	論文	新井白石の国家構想—国王復号・武家勲階制の検討を通じて—	大川真
336	34	2002	論文	石原莞爾の宗教観と世界最終戦争論	松岡幹夫
337	34	2002	論文	北一輝の「日本」—『国家改造案原理大綱』における進化論理解の変転—	佐藤美奈子
338	34	2002	論文	和辻哲郎における日本文化史研究の始まり—その視点、方法的態度、実践的意義—	飯嶋裕治
339	34	2002	書評	市川浩史著『吾妻鏡の思想史—北条時頼を読む』	八木聖弥
340	34	2002	書評	ケイト・W・ナカイ著『新井白石の政治戦略—儒学と史論』	前田勉
341	34	2002	書評	前田勉著『近世神道と国学』	高橋美由紀
342	34	2002	報告	2001年度大会の概況	
343	35	2003	特集	〈2002年度大会シンポジウム〉大正思想史の諸問題	

344	35	2003	シンポジウム	大正思想史の諸問題——関心の所在——	平石直昭
345	35	2003	シンポジウム	大正デモクラシーと大山郁夫	黒川みどり
346	35	2003	シンポジウム	近代日本のアナーキズム思想の構造——丸山真男の忠誠・反逆論とその関連——	板垣哲夫
347	35	2003	シンポジウム	大正思想史とアジア・ナショナルリズム	和田守
348	35	2003	シンポジウム	「社会の発見」とその影——シンポジウム雑感——	苅部直
349	35	2003	パネルセッション	思想の学と書物の学と——パネルセッション編成の趣旨——	高橋章則
350	35	2003	パネルセッション	江戸後期の医学の場合——幕府医学館の学績を中心に——	町泉寿郎
351	35	2003	パネルセッション	伊勢の蔵書家——伊勢商人竹口家の人々とその蔵書——	高倉一紀
352	35	2003	パネルセッション	学問の形成と「書物」の集積	高橋章則
353	35	2003	パネルセッション	津田・村岡・和辻の天皇論——趣旨説明——	田尻祐一郎
354	35	2003	パネルセッション	津田左右吉と「天皇」	田尻祐一郎
355	35	2003	パネルセッション	村岡典嗣と「天皇」	畑中健二
356	35	2003	パネルセッション	和辻哲郎の「天皇」論	田中久文
357	35	2003	研究史	近代仏教とアジア——最近の研究動向から——	末木文美士
358	35	2003	提言	思想史と宗教史のあいだ	林淳
359	35	2003	論文	手嶋堵庵による石門心学の創出	高野秀晴
360	35	2003	論文	橘守部の神典解釈——「タブー」の神学——	東より子
361	35	2003	論文	平田篤胤の転生観	中川和明
362	35	2003	論文	〈もの憑き〉を語る儒医——近世日本における医家の自己規定とその諸相——	兵藤晶子
363	35	2003	論文	窮理学の流行をめぐる磁場——福沢諭吉と戯作者たちの啓蒙時代——	秋田摩紀
364	35	2003	論文	「宗教」の再構成——西周における啓蒙の戦略——	菅原光
365	35	2003	書評	佐藤弘夫著『偽書の世界——神仏・異界と交感する中世』	三橋正
366	35	2003	書評	黒住真著『近世日本社会と儒教』	中村春作
367	35	2003	書評	鈴木暎一著『国学思想の史的研究』	表智之
368	35	2003	書評	星山京子著『徳川後期の攘夷思想と「西洋」』	本郷隆盛
369	35	2003	書評	中村春作著『江戸儒教と近代の「知」』	高坂史朗
370	35	2003	報告	2002年度大会の概況	
371	36	2004	特集	〈2003年度大会シンポジウム〉思想を語るメディア——近世日本を例として——	
372	36	2004	シンポジウム	思想を語るメディア——近世日本を例として——	澤井啓一
373	36	2004	シンポジウム	「媒介」の思想史的意義——思想を「媒介」する「モノ」と「人」——	高橋章則
374	36	2004	シンポジウム	メディアを通してみた思想史料論	福田千鶴
375	36	2004	シンポジウム	近世人の思想形成とメディア	若尾政希
376	36	2004	シンポジウム	方法的視座としての読書論——コメント——	宇野田尚哉
377	36	2004	シンポジウム	媒介者と地域社会——コメント——	小林准士
378	36	2004	シンポジウム	思想史研究とメディア——討論を通して——	大野出
379	36	2004	パネルセッション	吉田松陰研究の現在——吉田松陰を外から見る——	高橋文博
380	36	2004	パネルセッション	「投夷書」原本でみる松陰の西洋学習の姿勢	陶徳民
381	36	2004	パネルセッション	松陰における太平天国認識とその政治思想の転換	郭連友
382	36	2004	パネルセッション	吉田松陰と白旗——「国際社会」認識の転回——	桐原健真
383	36	2004	研究史	イエズス会士系著訳書の受容	吉田忠
384	36	2004	提言	方法としての地域	赤坂憲雄
385	36	2004	論文	「ハビアン」対「不于」——一七世紀初頭日本の思想文脈におけるハビアン思想の意義と『排耶蘇』——	キリ・パラモア
386	36	2004	論文	鈴木正三の門流と近世洞済をめぐる一考察——白隠と面山の視点から——	三浦雅彦

387	36	2004	論文	司法省法学校「放廢社」にみる個人と結社——陸羯南と原敬を中心に——	鈴木啓孝
388	36	2004	論文	「日琉同祖論」と「民族統一論」——その系譜と琉球の近代——	與那覇潤
389	36	2004	論文	新渡戸稲造における「調和」——「修養」概念をてがかりとして——	森上優子
390	36	2004	論文	福田徳三における社会政策論とアジア——異端の大正デモクラシー思想——	武藤秀太郎
391	36	2004	論文	昭和初期京都学派における「歴史」の問題の萌芽——三木清および田辺元の思想と「歴史の非合理性」という視点——	杉本耕一
392	36	2004	書評	James McMullen, Idealism, Protest, and The Tale of Genji: The Confucianism of Kumazawa Banzan (1619-91)	平石直昭
393	36	2004	書評	若尾政希著『安藤昌益からみえる日本近世』	山本眞功
394	36	2004	書評	松田京子著『帝国の視線——博覧会と異文化表象』	昆野伸幸
395	36	2004	書評	渡辺和靖著『保田與重郎研究』	新保祐司
396	36	2004	書評	竹内整一著『「おのずから」と「みずから」——日本思想の基層』	藤田正勝
397	36	2004	報告	2003年度大会の概況	
398	37	2005	特集	〈2004年度大会シンポジウム〉思想史における一九三〇年代——京都学派の位置——	
399	37	2005	シンポジウム	思想史における一九三〇年代——京都学派の位置——	藤田正勝
400	37	2005	シンポジウム	歴史的意識と社会存在論	高阪史朗
401	37	2005	シンポジウム	植民地／帝国の「世界史の哲学」	米谷匡史
402	37	2005	シンポジウム	科学論から一九三〇年代を見る——下村寅太郎の思想を中心に——	中岡成文
403	37	2005	シンポジウム	哲学における社会的実践——コメント——	高橋文博
404	37	2005	シンポジウム	京都学派・その多様性をめぐって——コメント＋討論のまとめ——	田中久文
405	37	2005	パネルセッション	趣旨説明	市川浩史
406	37	2005	パネルセッション	円爾禪の特質——円爾と蘭溪の比較からみて——	吉原健雄
407	37	2005	パネルセッション	円爾弁円における「禪」の意味と「仏心宗」の位置づけ	加藤みち子
408	37	2005	パネルセッション	円爾における禪と密の関係	島田健太郎
409	37	2005	パネルセッション	コメント	菅基久子
410	37	2005	パネルセッション	趣旨説明	三橋正
411	37	2005	パネルセッション	『麗氣記』の世界観	三橋正
412	37	2005	パネルセッション	『麗氣記』における鏡について	本多亮
413	37	2005	パネルセッション	密教による『麗氣記』の相承——麗氣灌頂の成立と変遷——	赤塚祐道
414	37	2005	パネルセッション	『麗氣記』の受容層	関口崇史
415	37	2005	研究史	日本における宋明思想研究の動向	土田健次郎
416	37	2005	提言	どのような日本をどの立場から見るか	石井公成
417	37	2005	論文	藤原仲麻呂における維摩会——天平宝字元年の奏上をめぐって——	富樫進
418	37	2005	論文	平安期における女人成仏の系譜——願文を中心として——	稻城正己
419	37	2005	論文	近世における『文公家礼』に関する実践的言説——崎門学派の場合——	田世民
420	37	2005	論文	【草カンムリ＋ごんべん＋援のつくり】園学派と音楽	暢素梅
421	37	2005	論文	平田篤胤の『古道大意』の形成と刊行	中川和明
422	37	2005	論文	高山樗牛における「道義」と「文学」——物質主義批判と外交問題——	先崎彰容
423	37	2005	論文	「鉄工」の秩序思想と明治日本——労働組合運動の黎明——	大田英昭
424	37	2005	論文	観照から実践へ——仙台旧第二高等学校における昭和初期左傾学生の群像——	田中祐介
425	37	2005	書評	市川浩史著『日本中世の歴史意識——三国・末法・日本』	窪田高明
426	37	2005	書評	宮城公子著『幕末期の思想と習俗』	吉田公平
427	37	2005	書評	末木文美士著『明治思想家論—近代日本の思想・再考Ⅰ』『近代日本と仏教—近代日本の思想・再考Ⅱ』	大桑齊
428	37	2005	報告	2004年度大会の概況	
429	38	2006	特集	〈2005年度大会シンポジウム〉転生する神話——「日本思想史」は描きうるか——	

430	38	2006	シンポジウム	転生する神話——「日本思想史」は描きうるか——	荻部直
431	38	2006	シンポジウム	神話の変奏と国号「日本」	神野志隆光
432	38	2006	シンポジウム	近世日本の神話解釈——孤独な知識人の夢——	前田勉
433	38	2006	シンポジウム	「古伝」から「神話」へ——神話をめぐる近代の起点と行方——	清水正之
434	38	2006	シンポジウム	実践的対話への糸口——コメント——	磯前順一
435	38	2006	シンポジウム	日本思想史が志向するもの——コメント——	山東功
436	38	2006	パネルセッション	近世前期の思想論争——『儒仏問答』をめぐって——	前田一郎
437	38	2006	パネルセッション	近代東アジアにおける政治思想の形成と西洋——周縁のキリスト者の場合——	陶徳民
438	38	2006	パネルセッション	日本の「戦後」を考える	樋口浩造
439	38	2006	研究史	近世儒教研究史(七〇年代後半～)	片岡龍
440	38	2006	提言	日本思想史における「インド的なもの」の再評価のため	ファビオ・ランベッリ
441	38	2006	論文	中世禅の仏語観——円爾弁円と無住一円——	菅基久子
442	38	2006	論文	「天地」と人間——徳川日本の環境思想の特質——	佐久間正
443	38	2006	論文	朝鮮儒者における徂徠学——丁若鏞の『論語古今注』を素材に——	李基原
444	38	2006	論文	明治国家における神祇祭祀の意義——明治神祇官の「御巫」設置をめぐって——	小平美香
445	38	2006	論文	森有礼とその周縁——「sympathy」という国民教育論——	近藤裕樹
446	38	2006	論文	世紀転換期の通商立国論——明治期南進論再考——	三牧聖子
447	38	2006	論文	戦中期大熊信行の秩序原理——国家総力配分と「人間」——	今田剛士
448	38	2006	書評	佐藤弘夫著『起請文の精神史——中世世界の神と仏』『神国日本』	伊藤聡
449	38	2006	書評	清水正之著『国学の他者像——誠実と虚実』	遠山敦
450	38	2006	書評	関口すみ子著『御一新とジェンダー——荻生徂徠から教育勅語まで』、アン・ウォール著『たをやめと明治維新——松尾多勢子の反伝記的生涯』	澤井啓一
451	38	2006	報告	2005年度大会の概況	
452	39	2007	特集	〈2006年度大会シンポジウム〉近代の漢学	
453	39	2007	シンポジウム	近代の漢学	樋口浩造
454	39	2007	シンポジウム	「支那学」の位置	齋藤希史
455	39	2007	シンポジウム	近代の漢学	吉田公平
456	39	2007	シンポジウム	「漢学」に異議あり！——コメント——	澤井啓一
457	39	2007	シンポジウム	「近代」と「漢学」	大久保健晴
458	39	2007	パネルセッション	靈魂観の行方——遺骨と魂魄をめぐって——	中村一基、中村安宏
459	39	2007	研究史	近年の国学研究	星山京子
460	39	2007	提言	開かれた日本思想史学へ——部外者からの提言——	小島毅
461	39	2007	論文	浅見綱斎の神道観と道について	清水則夫
462	39	2007	論文	荻生徂徠の思想形成における医学と兵学——『徂徠先生医言』と『孫子国字解』を中心に——	藍弘岳
463	39	2007	論文	生成原理としての産靈——『古事記伝』における「成」の論理展開——	吉川宣時
464	39	2007	論文	後期水戸学における思想的転回——会沢正志斎の思想を中心に——	大川真
465	39	2007	論文	秋田の平田門人と書物・出版	吉田麻子
466	39	2007	論文	戦後初期の沖縄における復帰論／独立論の再検討——講和交渉期の帰属論争の思想的内実——	櫻澤誠
467	39	2007	書評	井上寛司著『日本の神社と「神道」』	白山芳太郎
468	39	2007	書評	玉懸博之著『近世日本の歴史思想』	大隅和雄
469	39	2007	書評	大桑齊・前田一郎編『羅山・貞徳』儒仏問答——註解と研究』	三浦雅彦
470	39	2007	書評	眞壁仁著『徳川後期の学問と政治——昌平坂学問所儒者と幕末外交変容』	中田喜万
471	39	2007	書評	アンドリュウ・E・バーシェイ著『近代日本の社会科学——丸山眞男と宇野弘蔵の射程』	平野敬和
472	39	2007	追悼	石田一良名誉会長逝く	玉懸博之

473	39	2007	報告	2006年度大会の概況	
474	40	2008	特集	〈2007年度大会シンポジウム〉日本思想史の問題としてのキリシタン——思想と暴力	
475	40	2008	シンポジウム	キリシタンをめぐる問題にいかにかアプローチするか	佐久間正
476	40	2008	シンポジウム	近世国家の宗教編成とキリシタン排撃	大桑齊
477	40	2008	シンポジウム	キリシタンと「殉教」の論理——キリスト教伝来の意味と殉教への道——	五野井隆史
478	40	2008	シンポジウム	聖と俗にかかわる葛藤:「人が神になる」——コメント——	高橋文博
479	40	2008	パネルセッション	天台宗談義所における知の形成——柏原談義所を中心に——	曾根原理・松本公一・大島薫
480	40	2008	研究史	封建制論の変容	今谷明
481	40	2008	提言	江戸儒学史再考——和本リテラシーの回復を願うとともに——	中野三敏
482	40	2008	論文	九条兼実の反淳素思想——中世初期における帰属の歴史思想の一側面——	森新之介
483	40	2008	論文	熊沢蕃山の死生観	本村昌文
484	40	2008	論文	幕末維新期の東信州と平田国学	吉田麻子
485	40	2008	論文	三木清における遺稿「親鸞」の位置づけ	西塚俊太
486	40	2008	論文	「歴史」と「哲学」との狭間での京都学派の歴史哲学——高坂正顕を中心に——	杉山耕一
487	40	2008	書評	宮家準著『神道と修験道——民俗宗教思想の展開』	曾根原理
488	40	2008	書評	佐藤弘夫著『死者のゆくえ』	山田雄司
489	40	2008	書評	荻生茂博著『近代・アジア・陽明学』	井上厚史
490	40	2008	書評	阪本是丸著『近世・近代神道論考』、藤田大誠著『近代国学の研究』	前田勉
491	40	2008	書評	松田宏一郎著『江戸の知識から明治の政治へ』	苅部直
492	40	2008	書評	昆野伸幸著『近代日本の国体観』、長谷川亮一著『「皇国史観」という問題』	梅森直之
493	40	2008	書評	佐藤正英著『小林秀雄——近代日本の発見』	片岡龍
494	40	2008	報告	2007年度大会の概況	
495	41	2009	特集	〈2008年度シンポジウム〉戦前と戦後——思想史から問う——	
496	41	2009	シンポジウム	戦前と戦後——思想史から問う——	中村春作
497	41	2009	シンポジウム	日本ナショナリズムにおける“アメリカの影”	米原謙
498	41	2009	シンポジウム	二十世紀思想史としての昭和思想史	植村和秀
499	41	2009	シンポジウム	「昭和」の多面性——コメント——	苅部直
500	41	2009	シンポジウム	アメリカとソ連の間: 昭和思想史の方法論的考察——コメント——	菅原潤
501	41	2009	パネルセッション	日中韓における洋学の伝来と「天」観念の変容	井上厚史
502	41	2009	研究史	「京都学派」とは何か——近年の研究に触れながら——	藤田正勝
503	41	2009	提言	「魂の書物」の発見をめざして——寺院資料調査研究の現場から——	阿部泰郎
504	41	2009	論文	平安時代における穢れ観念の変容——神祇祭祀からの分離——	尾留川方孝
505	41	2009	論文	中世叡山律僧の神祇信仰について——本覚思想との関係から——	船田淳一
506	41	2009	論文	了誉聖岡の神道図像学——『麗気記私鈔』『麗気記神図画私鈔』の考察から——	鈴木英之
507	41	2009	論文	鈴木正三の仁王禪とその展開——武士の視点から——	三浦雅彦
508	41	2009	論文	「声」と「今」——富永仲基の秩序論——	清水光明
509	41	2009	論文	本居宣長の『日本書紀』本文批評——『神代紀鬘華山陰』を中心に——	水野雄司
510	41	2009	論文	「精神主義」はだれの思想か——雑誌『精神界』と暁烏敏——	山本伸裕
511	41	2009	書評	西村玲著『近世仏教思想の独創——僧侶普寂の思想と実践』	大桑齊
512	41	2009	書評	樋口浩造著『「江戸」の批判的系譜学——ナショナリズムの思想史』	桂島宣弘
513	41	2009	書評	前田勉著『江戸後期の思想空間』	松田宏一郎
514	41	2009	報告	2008年度大会の概況	
515	42	2010	特集	〈2009年度大会シンポジウム〉日本思想史から見た憲法——歴史・アジア・日本国憲法	

516	42	2010	シンポジウム	日本思想史からみた憲法	佐久間正
517	42	2010	シンポジウム	小野梓と法典編纂の時代——「国憲」と「民法」を巡る歴史的根源からの問い——	大久保健晴
518	42	2010	シンポジウム	折りたたまれた帝国としての戦後日本と東アジア地域形成	浅野豊美
519	42	2010	シンポジウム	小野梓・再読からの視座——コメント——	樋口陽一
520	42	2010	シンポジウム	「折りたたまれた帝国」としての戦後日本——コメント——	岡本厚
521	42	2010	パネルセッション	在宅ホスピスの現場における日本思想史研究の可能性——「病院死」を選択する日本人——	本村昌文・桐原健真
522	42	2010	パネルセッション	植民地朝鮮における他者表象——『朝鮮史』編纂と近代学術知——	桂島宣弘
523	42	2010	研究史	「国家神道」研究の四〇年	阪本是丸
524	42	2010	提言	人の営みにおける思想の位置	小路田泰直
525	42	2010	論文	天皇の「恥」が意味するもの——『日本霊異記』上巻第一縁考——	伊藤由希子
526	42	2010	論文	荻生徂徠の『尚書』観——『尚書学』攷証——	山口智弘
527	42	2010	論文	文体と国体の狭間で——日清戦争後の漢詩文意識の一端——	許時嘉
528	42	2010	論文	内村鑑三の宇宙観と伝統思想——『報徳記』の〈翻案〉を手がかりとして——	今高義也
529	42	2010	論文	明治期与謝野晶子における自己認識の変容	小嶋翔
530	42	2010	論文	大正期における日本仏教論の展開——高楠順次郎の思想的研究・序説——	オリオン・クラウタウ
531	42	2010	論文	天野貞祐の規範意識	森川多聞
532	42	2010	書評	ルチア・ドルチェ／松本郁代編『儀礼の力——中世宗教の実践世界』	曾根原理
533	42	2010	書評	菅原光著『西周の政治思想——規律・功利・信』、真辺将之著『西村茂樹研究——明治啓蒙思想と国民道徳論』	河野有理
534	42	2010	書評	与那覇潤著『翻訳の政治学——近代東アジア世界の形成と日琉関係の変容』	苅部直
535	42	2010	報告	2009年度大会の概況	
536	43	2011	シンポジウム	近代日本の宗教——仏教を中心に——	桂島宣弘
537	43	2011	シンポジウム	宗教的学知の形成——仏教学を例に——	林淳
538	43	2011	シンポジウム	帝国と仏教	大谷栄一
539	43	2011	パネルセッション	両大戦間期日本における戦争と平和	川田稔
540	43	2011	パネルセッション	平田国学研究の課題と可能性	田尻祐一郎
541	43	2011	パネルセッション	近代仏教と真宗の問題	オリオン・クラウタウ
542	43	2011	研究史	閻斎学派研究の諸問題	清水則夫
543	43	2011	提言	日本思想史と歴史学	尾藤正英
544	43	2011	論文	平安時代における穢れ観念の多元性	尾留川方孝
545	43	2011	論文	近世仏教におけるキリシタン批判——雪窓宗崔を中心に——	西村玲
546	43	2011	論文	元禄期における「日用」言説の浮上——浅見綱斎の伊藤仁斎批判——	李芝映
547	43	2011	論文	蔡温の思想——琉球王国における儒教と風水——	佐久間正
548	43	2011	論文	近世中期における孝子顕彰の思想構造とその意義——『孝婦鳴盛編』を中心に——	フォン・ステーンパール・ニールス
549	43	2011	論文	「ロマ書」八章の自然観の受容と展開——内村鑑三とその後継者における自然の境位——	柴田真希都
550	43	2011	書評	伊藤聡著『中世天照大神信仰の研究』	原克昭
551	43	2011	書評	辻本雅史著『思想と教育のメディア史——近世日本の知の伝達』	宇野田尚哉
552	43	2011	書評	李基原著『徂徠学と朝鮮儒学——春台から丁若鏞まで』	井上厚史
553	43	2011	書評	大久保健晴著『近代日本の政治構想とオランダ』	菅原光
554	43	2011	報告	2010年度大会の概況	
555	44	2012	シンポジウム	カミになる王——思想史の視点から——	桂島宣弘
556	44	2012	シンポジウム	中世における天皇の身体と即位灌頂	松本郁代
557	44	2012	シンポジウム	秀吉・家康の神格化と「徳川王権論」	曾根原理
558	44	2012	シンポジウム	垂加神道における「ヒトガミ」と天皇	前田勉

559	44	2012	シンポジウム	日本の神聖王権の宗教的ビジョンの両系譜から——コメント——	島蘭進
560	44	2012	パネルセッション	平安前期の神祇と仏教	三橋正
561	44	2012	パネルセッション	神を説く僧——中世学僧たちの神道——	林東洋
562	44	2012	パネルセッション	「天道」論——「天道」とは、いったい何だったのか——	大野出ほか
563	44	2012	パネルセッション	幕末維新期の護法思想・再考	桐原健真ほか
564	44	2012	研究史	日本思想史研究の課題としての漢字、漢文、訓読	中村春作
565	44	2012	動向	帝国に「近代」はあったか——未完のポストコロニアリズムと日本思想史学——	與那覇潤
566	44	2012	提言	思想史の方法——『論語』をどう読むか——	子安宣邦
567	44	2012	論文	古代日本における「食国」の思想	村上麻佑子
568	44	2012	論文	世阿弥の「禪的教養」をめぐる考察——『風姿花伝』第三篇第九問答「花情」をどう読むか——	上野太祐
569	44	2012	論文	おそれとつつしみ——近世における「敬」説の受容と展開——	坂東洋介
570	44	2012	論文	中江藤樹の福善禍淫論再考	高橋恭寛
571	44	2012	論文	江戸時代前期における「聖人可学」の一展開——伊藤仁斎による「古義」の標榜について——	阿部光麿
572	44	2012	論文	石川香山『陸宣公全集釈義』と十八世紀後半における名古屋の古代学	田中秀樹
573	44	2012	論文	内藤湖南の台湾統治論——明治中期の国粹主義思想と植民地——	中川未来
574	44	2012	論文	神秘をめぐる思潮と象徴主義——一九一〇年代を中心として——	川合大輔
575	44	2012	論文	和辻倫理学と「支那」認識の思想史——論説「支那人の特性」と『風土』『シナ』節の比較——	弓谷葵
576	44	2012	紹介	舞田敦編『綱齋先生全集』について	田尻祐一郎
577	44	2012	紹介	フランスにおける中江兆民と幸徳秋水の著作の出版	米原謙
578	44	2012	紹介	James W. Heisig, Thomas P. Kasulis, John C. Maraldo(eds.), Japanese Philosophy: A Sourcebook(University of Hawai'i Press, August 2011)	苅部直
579	44	2012	書評	池見澄隆編著『冥顕論——日本人の精神史』	前川健一
580	44	2012	書評	前川健一著『明恵の思想史的研究——思想構造と諸実践の展開』	松尾剛次
581	44	2012	書評	市來津由彦他編『江戸儒学の中庸注釈』	高山大毅
582	44	2012	書評	大谷栄一著『近代仏教という視座——戦争・アジア・社会主義』	山本伸裕
583	44	2012	報告	2011年度大会の概況	
584	45	2013	シンポジウム	巡礼・遍路の思想	桂島宣弘
585	45	2013	シンポジウム	中世巡礼の精神史——山林修行者と冥界の問題——	船田淳一
586	45	2013	シンポジウム	「監察」と「清浄」——近世の名所化した寺社をめぐる状況と課題——	青柳周一
587	45	2013	シンポジウム	式社巡拝・皇陵巡拝の思想的淵源	井上智勝
588	45	2013	パネルセッション	近世の習合思想	曾根原理
589	45	2013	パネルセッション	清沢満之とその彼方——精神主義研究の現在——	碧海寿広
590	45	2013	研究史	「神道」研究史管見	伊藤聡
591	45	2013	動向	「東アジアから考える」はいかにして可能か？——日中思想交流経験を中心として——	黄俊傑
592	45	2013	提言	思想史と実体史との往還——丸山真男理論の社会不適合説をめぐる議論に寄せて——	笠谷和比古
593	45	2013	論文	毘盧遮那如来への〈みち〉——空海の言語観をめぐって——	富樫進
594	45	2013	論文	中村敬宇における「学者」の本分論——幕末の昌平黌をめぐって——	李セボン
595	45	2013	論文	〈信の契機〉——清沢満之の「精神主義」を読み解く——	長谷川徹
596	45	2013	論文	井上円了と朝鮮巡講、その歴史的位について	許智香
597	45	2013	論文	近代仏教とジェンダー——女性信徒の内面を読む——	碧海寿広
598	45	2013	論文	宗教のなかの「聖戦」／「聖戦」のなかの宗教——天理教の〈ひのきしん〉と勤労報国——	永岡崇
599	45	2013	紹介	東アジアにおける地域主義とアジア主義に関する歴史研究の現在	スヴェン・サーラーほか
600	45	2013	紹介	『愛知県史 資料編20 近世6 学芸』	岸野俊彦
601	45	2013	書評	原克昭著『中世日本紀論考——註釈の思想史』	林東洋

602	45	2013	書評	吉田麻子著『知の共鳴——平田篤胤をめぐる書物の社会史』	武知正晃
603	45	2013	書評	田世民著『近世日本における儒礼受容の研究』	石黒衛
604	45	2013	書評	大川真著『近世王権論と「正名」の転回史』	中田喜万
605	45	2013	書評	オリオン・クラウタウ著『近代日本思想としての仏教史学』	福島栄寿
606	45	2013	書評	河野有理著『田口卯吉の夢』	松田宏一郎
607	45	2013	書評	根津朝彦著『戦後『中央公論』と「風流無譚」事件——「論壇」・編集者の思想史』	宇野田尚哉
608	45	2013	報告	2012年度大会の概況	
609	46	2014	シンポジウム	越境する日本思想史——思想と文学の垣根越え——	小島康敬
610	46	2014	シンポジウム	和歌というメディア	ツベタナ・クリステワ
611	46	2014	シンポジウム	宣長国学における歌——敷島の歌・うひ山ぶみ・著者名——	田中康二
612	46	2014	シンポジウム	フィクションと自由——伊藤整における「近代日本」への問い——	苅部直
613	46	2014	シンポジウム	「思想史研究者」と「文学研究者」との垣根越え——事後的な感懐——	高橋文博
614	46	2014	パネルセッション	思想史としてのおみくじ	大野出ほか
615	46	2014	研究史	近代仏教研究は何を問うのか——とくに二〇〇〇年代以降の研究動向を中心に——	大谷栄一
616	46	2014	提言	丸山眞男の福沢諭吉論——批判的考察——	米原謙
617	46	2014	論文	穢れ観念の古代から中世への展開	尾留川方孝
618	46	2014	論文	中世浄土宗における偽書——聖岡・聖聡著作を中心に——	鈴木英之
619	46	2014	論文	世阿弥の思想形成をめぐる一考察——「感」の内実を手がかりに——	上野太祐
620	46	2014	論文	鈴木貞斎の闇齋学派・仁斎批判と「心」の主張について	清水則夫
621	46	2014	論文	交遊と不朽——服部南郭の古文辞学について——	吉川裕
622	46	2014	論文	諸藩における儒者登用の動向——一七～一八世紀の龍野藩を中心として——	浅井雅
623	46	2014	論文	大雑書に表現される「世界」観——「須弥山図」と「地底鯨之図」を中心に——	ホロヴニコヴァ・エレナ
624	46	2014	論文	一九二〇年代日本思想史と第一次国共合作	黒川伊織
625	46	2014	紹介	Critical Readings in the Intellectual History of Early Modern Japan, 2vol.s.	Boot, W J., ed.
626	46	2014	書評	伊藤由希子著『仏と天皇と「日本国」——『日本霊異記』を読む——』	富樫進
627	46	2014	書評	森新之介著『摂関院政期思想史研究』	島田健太郎
628	46	2014	書評	濱野靖一郎著『頼山陽の思想——日本における政治学の誕生』	相原耕作
629	46	2014	書評	尾原宏之著『軍事と公論——明治元老院の政治思想』	中野目徹
630	46	2014	書評	杉本耕一著『西田哲学と歴史的世界——宗教への問いへ』	田中久文
631	46	2014	報告	2013年度大会の概況	
632	47	2015	シンポジウム	死者の記憶——思想史と歴史学の架橋——	林淳
633	47	2015	シンポジウム	死者とカミのあいだ——ヤスクニの思想と語られる死者の系譜——	佐藤弘夫
634	47	2015	シンポジウム	大量死の時代と社会的対応——一八九〇年代の死者追悼の形と観念——	羽賀祥二
635	47	2015	シンポジウム	コメント：「靖国」や「戦争」を直接に語らず、「死者の記憶」を語ること	見城悌治
636	47	2015	シンポジウム	コメント：権力の誘惑——靖国を考える視点設定をめぐって——	樋口浩造
637	47	2015	パネルセッション	近代日本仏教の「前夜」——幕末維新时期における護法論の射程——	桐原健真ほか
638	47	2015	研究史	国語学史と言語思想史	山東功
639	47	2015	提言	「戦後日本」再考の方法的試み——『シリーズ戦後日本社会の歴史』を手がかりに——	安田常雄
640	47	2015	論文	慈円『愚管抄』幼学書説——その想定読者に着目して	森新之介
641	47	2015	論文	序破急概念の変遷——世阿弥『拾玉得花』を中心に——	佐々木香織
642	47	2015	論文	根源神・国造立尊の説明方式から見る理当心地神道の「神」観念	韋佳
643	47	2015	論文	山鹿素行の「民兵」育成論——「農」から「士」へ——	中嶋英介
644	47	2015	論文	中村蘭林の文章学——十八世紀日本における朱子学の展開——	山本嘉孝

645	47	2015	論文	蟹養齋における儒礼論——『家礼』の喪祭儀礼をめぐって——	松川雅信
646	47	2015	論文	福沢署名著作の原型について	平山洋
647	47	2015	論文	富士川游の医療論における「宗教」の意義	島田雄一郎
648	47	2015	紹介	『カミと人と死者』が目指したこと	富樫進
649	47	2015	紹介	朱熹『論語集注』全訳注を刊行して	土田健次郎
650	47	2015	対話	民衆へのさまざまなアプローチ——赤澤史朗他編『戦後知識人と民衆観』評——	長妻三佐雄
651	47	2015	対話	知識人とは何か——出原政雄編『戦後日本思想と知識人の役割』評——	黒川みどり
652	47	2015	書評	末木文美士著『草木成仏の思想——安然と日本人の自然観』	船田淳一
653	47	2015	書評	井上泰至著『近世刊行軍書論——教訓・娯楽・考証』	小川和也
654	47	2015	書評	高野秀晴著『教化に臨む近世学問——石門心学の立場』	相原耕作
655	47	2015	書評	中野目徹著『明治の青年とナショナリズム』、鈴木啓孝著『原敬と陸羯南』	岡本佳子
656	47	2015	書評	碧海寿広著『近代仏教のなかの真宗——近角常観と求道者たち』	島蘭進
657	47	2015	書評	黒川伊織著『帝国に抗する社会運動——第一次日本共産党の思想と行動』	緒方康
658	47	2015	書評	平野敬和著『丸山眞男と橋川文三——「戦後思想」への問い』	河野有理
659	47	2015	報告	2014年度大会の概況	
660	48	2016	シンポジウム	思想史学の問い方——二つの日本思想史講座をふまえて——	長志珠絵
661	48	2016	シンポジウム	戦後の近世思想史研究をふりかえる	田尻祐一郎
662	48	2016	シンポジウム	思想／思想史／思想史学——二つの日本思想史講座と日本思想史の問い方——	末木文美士
663	48	2016	シンポジウム	コメント：「問い方」の弁別	高山大毅
664	48	2016	シンポジウム	コメント：両講座における中世思想史研究の課題	森新之介
665	48	2016	シンポジウム	コメント：〈日本思想史〉は存立可能なのだろうか？	澤井啓一
666	48	2016	パネルセッション	津田左右吉と早稲田大学——記憶と記録——	岡本天晴ほか
667	48	2016	パネルセッション	幕末明治の「アメリカ」受容	陶徳民ほか
668	48	2016	パネルセッション	国史学とアジアと仏教文物	佐藤文子ほか
669	48	2016	パネルセッション	「大正デモクラシー」の再検討	平野敬和ほか
670	48	2016	研究史	植民地研究の展開と「文化」研究	松田京子
671	48	2016	動向	沖縄論の現在——歴史研究と現在との対話のなかで——	櫻澤誠
672	48	2016	提言	絶望の淵から時代に切り込む思想史——安丸良夫氏を偲んで——	桂島宣弘
673	48	2016	論文	最澄における『仁王経』受容の意義——不空教学と大乘菩薩戒構想との関係を視野に	富樫進
674	48	2016	論文	官撰儀式書の構成の模索と漢籍	尾留川方孝
675	48	2016	論文	『太平記秘伝理尽鈔』における倫理と欲望——〈聖人・釈迦「賊」論〉をめぐって——	山本晋平
676	48	2016	論文	浅見綱斎の「大義名分」の再検討	清水則夫
677	48	2016	論文	近世後期の教育現場における祭祀儀礼——津藩有造館の釈奠をめぐる議論と実践——	李月珊
678	48	2016	論文	戦前・戦中期日本のアジア社会論における〈アジア的なもの〉——概念の形成と意味の変遷——	周雨霏
679	48	2016	紹介	『シリーズ日本人と宗教』の目的と展望	林淳
680	48	2016	書評	大久保良峻著『最澄の思想と天台密教』	道元徹心
681	48	2016	書評	末木恭彦著『徂徠と崑崙』	山本嘉孝
682	48	2016	書評	高山大毅著『近世日本の「礼楽」と「修辞」——荻生徂徠以後の「接人」の制度構想』	片岡龍
683	48	2016	書評	水野雄司著『本居宣長の思想構造——その変質の諸相』	星山京子
684	48	2016	書評	中川未来著『明治日本の国粹主義思想とアジア』	鈴木啓孝
685	48	2016	書評	水谷悟著『雑誌『第三帝国』の思想運動——茅原華山と大正地方青年』	神谷昌史
686	48	2016	書評	福家崇洋著『満川亀太郎——慷慨の志猶存す』	黒川伊織
687	48	2016	書評	永岡崇著『新宗教と総力戦——教祖以後を生きる』	近藤俊太郎

688	48	2016	報告	2015年度大会の概況	
689	49	2017	シンポジウム	思想史のなかの雑誌メディア	長志珠絵
690	49	2017	シンポジウム	近代思想史研究における雑誌メディア	中野目徹
691	49	2017	シンポジウム	「メディア人間」の集会的無思想に挑む雑誌研究	佐藤卓己
692	49	2017	シンポジウム	コメント：「古典」か「雑誌」か	河野有理
693	49	2017	シンポジウム	コメント：シンポジウムの余白に	荻部直
694	49	2017	パネルセッション	近世における出版文化の諸相	伊藤聡ほか
695	49	2017	パネルセッション	「近世化」する日本社会の中の宗教	曾根原理ほか
696	49	2017	パネルセッション	近世神話の射程と可能性——神話概念の拡大——	鈴木英之ほか
697	49	2017	余録	第48号特集コメント 記事への応答	末木文美士
698	49	2017	研究史	民衆宗教研究の現在——ナラティヴの解体にむきあう——	永岡崇
699	49	2017	提言	なぜ丸山理論は朝鮮儒教に当てはまらないか	井上厚史
700	49	2017	論文	宰相の職掌——『周礼』に於ける王安石と太宰春台——	濱野靖一郎
701	49	2017	論文	近世日本地方庶民教化における清聖論の活用——『聖諭広訓』から『久世条教』『五條施教』へ——	殷暁星
702	49	2017	論文	民衆宗教世界の形成過程——如来教の秋葉信仰との対峙をめぐって——	石原和
703	49	2017	論文	革命と修養——木下尚江はなぜ静坐をしたのか——	栗田英彦
704	49	2017	論文	能率論および人間工学に喚起された人間の概念——一九二〇年代前半を中心に——	川合大輔
705	49	2017	論文	近代「国史学」における辻仏教史学	池田智文
706	49	2017	紹介	『徂徠集 序類』余言	高山大毅
707	49	2017	書評	伊藤聡著『神道の形成と中世神話』	松本公一
708	49	2017	書評	上野太祐著『花伝う花——世阿弥花伝書の思想』	佐藤弘夫
709	49	2017	書評	前田勉著『江戸教育思想史研究』	菅原光
710	49	2017	書評	柴田真希都著『明治知識人としての内村鑑三——その批判的精神と普遍主義の展開』	大川真
711	49	2017	書評	長尾宗典著『〈憧憬〉の明治精神史——高山樗牛・姉崎嘲風の時代』	尾原宏之
712	49	2017	書評	山本伸裕・碧海寿広編『清沢満之と近代日本』	佐野智規
713	49	2017	書評	オリオン・クラウタウ編『戦後歴史学と日本仏教』	石井公成
714	49	2017	報告	2016年度大会の概況	